

① 申請者	明和町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A (B) C D E	
③ タイトル				
祈る皇女齋王のみやこ 齋宮				
④ ストーリーの概要 (200字程度)				
<p>古代から中世にわたり、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「齋王」は、皇女として生まれながら、都から離れた伊勢の地で、人と神との架け橋として、国の平安と繁栄を願い、神への祈りを捧げる日々を送った。</p> <p>齋王の宮殿である齋宮は、伊勢神宮領の入口に位置し、都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。</p> <p>地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた齋宮跡一帯は、日本で齋宮が存在した唯一の場所として、皇女の祈りの精神を今日に伝えている。</p> <div data-bbox="193 1016 750 1529"></div> <div data-bbox="786 1084 1385 1485"></div>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
TEL		FAX		
E-mail				
住所				

市町村の位置図 (地図等)



構成文化財の位置図（地図等）





ストーリー

斎王—それは、およそ 660 年という長きに亘り、国の平安と繁栄のため、都を離れ、伊勢神宮の天照大神に仕えた特別な皇族女性のこと。そんな斎王が暮らした地、斎宮。伊勢神宮でもなく都でもない。慎ましやかであり雅やか。斎宮という独特で特別な世界は日本で唯一ココだけ。ココは三重県多気郡明和町。

【斎王の始まり】

斎王の歴史は日本神話の時代まで遡る。語り継がれる伝説の初代斎王は、天照大神の御杖代であった豊鍬入姫命。そのあとを継ぎ、天照大神の鎮座される場所を探し諸国を旅し、伊勢の地にたどり着いた倭姫命。倭姫命は、伊勢の地（現在の明和町大淀）に入り、佐々夫江行宮を造り、カケチカラ行事の発祥となる伝説をつくった。これが斎王と明和町との縁となったのか、斎王制度が確立し、斎王が天照大神に仕えた場所・斎宮は、伊勢神宮からおおよそ 15 km離れた伊勢神宮領の入口につくられた。

【都から斎宮へ】

斎王は飛鳥時代に制度が確立して以降、天皇の即位に伴って、未婚の内親王または女王から占いにより選ばれた。選ばれた斎王は、家族と離れ、慣れ親しんだ都での生活とも別れを告げ、200 人余りともいわれる従者に伴われて、斎王群行と呼ばれる 5 泊 6 日の旅により、斎宮へ向かう。この旅は斎王にとって神に近づく禊祓の旅である。聖なる神領の入り口に流れる川、祓川で斎王は最後の禊を行い、斎宮に入る。



平安時代の群行路・帰京路

【祈る斎王】

斎宮に住まいを移した斎王が伊勢神宮に赴くのは、9月の神嘗祭、6月、12月の月次祭の年3回のみ。9月の神嘗祭に奉仕するため、8月に身を清めたとされている尾野湊御禊場跡が大淀の海岸に残っている。それ以外の日々は斎宮で厳重な慎みを保ち、祈りの日々を過ごしなが、神と人との架け橋となっていた。



祈る斎王像（斎宮歴史博物館蔵）

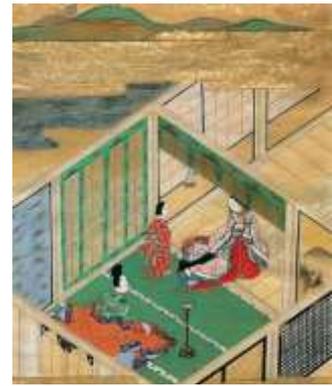
【斎王と王朝文学】

神に仕える身であるがために、恋愛を禁じられていた斎王。恋ゆえに斎王を解任されたり、恋人と引き裂かれたりという悲話も多く伝えられている。そんな斎王の悲恋をテーマにした物語が『伊勢物語』である。69段「狩の使」には、在原業平と斎王の一夜の出会いが描かれており、斎王が在原業平との別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという故事にあやかって、大淀にある松を業平松と呼んでいる。斎王の儂き恋物語の世界が舞い降りる美風景が今も広がっている。

また、『源氏物語』には斎王をモデルとした人物が登場する。光源氏をめぐる葵の上と六条御息所の攻防は『源氏物語』の中でも有名なシーンであるが、この六条御息所は最終的に斎王に選ばれた娘と一緒に伊勢に向かう。つまり斎宮で暮らすことになる。これは、実際に娘に付き添って斎宮に赴いた徽子女王、規子内親王親子がモデルとなっている。他にも「竹河の段」には、今も残る斎宮の地名、「竹川」が登場する。「竹川」にあった花園には、四季の花が植えられ、斎王も楽しまれていたと伝えられている。他にも、『大和物語』『更級日記』『栄華物語』『大鏡』などの作品に斎王・斎宮が登場している。

【齋宮での暮らし】

齋王の齋宮での暮らしは、祈りを捧げる慎ましやかな生活の一方で、十二単を纏い、貝合わせや盤すごろくを楽しみ、歌を詠むといった都のような雅やかな生活をしてきた。齋王の身の回りの世話、庶務などを 50 人近くの女官が行っていたことは、齋王の地位の高さをしめしている。また、齋宮寮と呼ばれる役所に勤める官人を中心に総勢 500 人以上の人々が齋宮で執務をしており、天皇の代理である齋王が暮らす齋宮は、都から訪れる人も多く、近隣の国からもさまざまな物資が集まるなど、この地方の文化の中心地の一つだった。



伊勢物語図色紙（齋宮歴史博物館蔵）

【齋王の解任】

齋王制度が続いたおよそ 660 年の間に、60 人以上の齋王が齋宮に赴いた。天皇の崩御や譲位によって新たな天皇に代わる時と、肉親が死ぬなどの不幸があった時、齋王自身の病などにより齋王は交代となった。赴任を終え、無事に都に帰った齋王もいれば、齋宮で亡くなった齋王もいる。彼女らのお墓は「隆子女王の墓」「惇子内親王の墓」として伝承され、今も大切に管理されている。

【幻の宮】

さまざまな史実や逸話・伝説を生みながらおよそ 660 年間続けられてきた齋王制度も、南北朝の時代以降、国内の兵乱のために廃絶してしまう。古の制度は歴史の中に埋もれ、地名として姿を残すも、齋宮は「幻の宮」となってしまった。幻の宮になりながらも、齋宮に住む人々は、先祖代々語り継がれてきた齋王・齋宮の存在を信じ、齋王の御殿があったとされる場所を「齋王の森」、齋宮の人々に親しまれている竹神社を「野々宮」と呼び、神聖な土地として大切に護り後世に伝え残してきた。

【蘇る齋宮】

そんな幻の宮・齋宮が蘇ったのは昭和の時代に入ってから。発掘調査により、齋宮の存在が確認され、昭和 54 年に国の史跡「齋宮跡」として指定された。発掘調査によって都のような「方格子地割」という碁盤の目状の区画道路を備え、伊勢神宮の社殿にも類する 100 棟もの建物が整然と並んでいたことが明らかになった。他にも緑釉陶器や蹄脚硯、墨書土器、祭祀用具の出土により、齋宮では都のような雅やかな生活が営まれていたことや、常に清浄を求め、禊を行っていたことが裏付けられた。



齋宮出土品（重要文化財）

今も続く、齋宮究明の発掘調査。すべて調査し終えるまであと 200 年以上かかるとされている。

齋宮—そこには、古から現在までたくさんの人々のたくさんの祈りが込められている。ココ「齋宮」は、未来に続く人々の想いが溢れている。



齋宮成立期と方格子地割の位置図

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	さいくうあと 齋宮跡	国史跡	<p>天皇に代わり伊勢神宮に仕えた皇女・齋王の宮殿と齋宮寮と呼ばれた役所の跡。古代から中世にかけて660年間続いた。</p> <p>齋宮での齋王の暮らしは、神への祈りをささげる日々を送るとともに都さながらの雅やかな生活を送っていた。</p>	
2	さいくうあとしゅつどひん 齋宮跡出土品 (齋宮歴史博物館蔵)	国重文	<p>出土品 2,661 点が指定されている。蹄脚硯や緑釉陶器、和鏡、羊形硯の出土により、これまで文献や地名からしか推定されていなかった齋宮の存在が現実的なものとなった。これらの出土品により齋宮では、神に仕える神聖かつ慎ましやかな生活と都さながらの雅やかな生活とが交錯する日々であったことが読み取れる。</p>	
3	さいおう もり 齋王の森	未指定	<p>齋王の宮殿があったと語り継がれ、齋宮のシンボリックな森として地元の人々により守られてきた。</p>	
4	たけじんじゃ ののみや 竹神社 (野々宮)	未指定	<p>齋王の宮殿があった神聖な場所が人々の信仰の場 (神社) として受け継がれ、現在も祈りの空間を感じられる。</p>	
5	はらいがわ 禊川	未指定	<p>禊川は、聖なる神領の入口に流れる川。齋王の齋宮への旅立ちは、200人余りの官人、女官等を連れて5泊6日かけて群行する。齋王にとっては、神に近づく禊祓の旅でもあり、この川で最後の禊を行って齋宮に赴任した。</p>	
6	たけがわ はなぞの 竹川の花園	未指定	<p>『源氏物語』の竹河の段の歌に登場し、伝承では、ここに四季の花が植えられていたとされ、齋王も花園に来て花を楽しんでいた景勝地</p>	

7	たかこじょおう ほか 隆子女王の墓	未指定	齋宮で亡くなった齋王、隆子女王の墓。隆子女王は醍醐天皇の孫女。宮内庁が管理を行い、清楚な雰囲気漂う。
8	さいおうおののみなとおんみそぎばあと 齋王尾野湊 御禊場跡	町史跡	尾野湊とは大淀海岸の古名。齋王が毎年9月に伊勢神宮で行われる「神嘗祭」に奉仕するため、8月晦日、禊を行って身を清めた場所といわれている。
9	おおよど 大淀	未指定	倭姫命が天照大神の鎮座場所を探し求め、この地にたどり着き命名 古代の多くの歌に「枕詞」として使われた景勝地
10	なりひらまつ 業平松	未指定	齋王が伊勢に来た在原業平をこの松の下で見送り、別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという物語に因んで業平松と呼ぶ。現在3代目 齋王のはかない恋物語の舞台となった風景が思い起こされる。
11	きさふえあんぐうあと 佐々夫江行宮跡	未指定	伝説の初代齋王・豊鍬入姫命の後を継ぎ、天照大神の御杖代として各地を巡幸した倭姫命が、伊勢の地に入られ、大淀に御船をとどめて造った宮跡
12	カケチカラ ほんしょう ち カケチカラ 発祥の地	未指定	齋王・倭姫命と真名鶴伝説が由来。神嘗祭に初穂の稲束を伊勢神宮の内玉垣に懸け、国の永遠の繁栄を祈る懸税（カケチカラ）行事の発祥の地

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① 齋宮跡



④竹神社



②齋宮跡出土品



⑤祓川



③齋王の森



⑥竹川の花園



⑦隆子女王の墓



⑩業平松



⑧斎王尾野湊御禊場跡



⑪佐々夫江行宮跡



⑨大淀



⑫カケチカラ発祥の地



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」は令和2年12月認定の『明和町文化財保存活用地域計画』にて関連文化財群の1つとして位置付けられ、ストーリー及び構成文化財の保存・活用の方針を定めており、また上位計画に当たる、『明和町総合計画』、『明和町総合戦略』に斎宮跡を核としたまちづくり、日本遺産を活かした観光誘客を図る旨が謳われている。地域計画の方針を基本とし『明和町歴史的風致維持向上計画』とも共同しながら中長期的に日本遺産を活用した地域活性化に取り組む。

天照大神に祈りを捧げるため、都から派遣された皇女「斎王」のために造られた「斎宮」は、我が国唯一の特色である歴史的文化遗产であり、そのストーリーや構成文化財の魅力をSNS等により多角的に継続して発信する。また、構成文化財の環境整備、既存ガイドの強化、複合ガイドの育成などハード、ソフト両面での受け入れ体制の改善を重ねインバウンドを含めた来訪者のストーリーの理解度及び満足度向上を目指す。

さらに都から斎宮まで、また、斎宮から伊勢神宮までの斎王が通ったルートに関わる自治体と連携して文化・観光面で交流を図るなど広域的な地域の活性化と観光振興を目指す。「斎宮・外宮・内宮」が一体という認識を定着させ伊勢神宮へ参拝する来訪者がまず斎宮を訪れるスキームを構築しリピーターになってもらう。斎宮へのツアーが高収益コンテンツとなることで、地域、旅行者、旅行業者などの民間事業者がWin-Winとなることを目指す。さらに来訪者が増加し地域が盛り上がることで地元飲食店、土産物店などの民間事業者の収益向上や地域住民の誇りの高まりを目指す。

上記の様に「日本遺産のまち明和町」を国内外に発信することにより、来訪者や移住者が増加し、総合戦略にある住みたいと思うまちづくりを進め人口減少の克服と本町の創生に寄与することを目指す。

(2) 地域活性化のための取組の概要

斎宮に興味を持ってもらい、国内外から多くの方に来訪してもらうため、また現地を訪れストーリーを体験し理解を深めリピーターになってもらうため、定期的に協議会や来訪者アップ会議(町や博物館を含む観光関連団体が参加する会議)を開催し、各構成団体が連携しながら以下の取組を実施する。

取組①観光振興の推進

- ・日本遺産関連商品や土産物、ツアー商品を開発。
- ・旅行者が何度も来たくするようなツアーにするため、(一社)明和観光商社や民間旅行会社等と協力し効果的な情報発信、キャッシュレス決済等を含めた安心して予約できるシステム、現地でのガイドや体験といった受け入れ態勢の向上を図り、収益性の高いツアー商品化を目指す。
- ・構成文化財周辺の空き家、古民家を修復し観光施設として活用。
- ・斎王まつりや観月会など既存のイベントの新たな活用方法や民間主導の新たなイベント

を検討。

- ・明和町は宿泊施設が少ないため、近隣市町との広域連携を展開し受け入れ態勢、ホスピタリティの向上を図る。

これらの取組により、新たなツアーや既存を含めたイベントを通して新規の来訪者を獲得。実際に齋宮を訪れ魅力を感じてもらい、地域振興や町の活性化につなげていく。

取組②価値と魅力の情報発信

- ・協議会の各構成団体が相互にSNSやHP等を通じて齋宮の魅力やイベント情報などを随時発信。

- ・史跡齋宮跡の発掘調査現場公開や日本遺産見学会など町や博物館(県)が中心となり現地での構成文化財の公開を実施

- ・齋宮に関するシンポジウムや講座、ワークショップなどを博物館など構成団体が協力して開催。

- ・古代官衙や齋王群行路の自治体といった齋宮跡関連地域、他の日本遺産認定団体と連携しながらPRを実施。

これらの取組により、国内外問わず不特定多数の人に齋宮の魅力を発信し、来訪するきっかけを創出。

取組③人材の育成

- ・既存のガイドボランティアの新規募集や育成を行い体制の強化を図る。

- ・齋宮以外にある構成文化財、ツーリズム、グルメ、アクティビティに精通した複合ガイドの育成。

- ・外国語対応可能なガイドの発掘、育成。

- ・ガイド実績、それぞれの得意分野に応じたガイドの差別化。来訪者の趣向に応じたガイドが選択される仕組みづくりを検討。

取組④来訪者対策

- ・史跡齋宮跡及び構成文化財の周辺、公園環境整備を行い来訪者だけでなく地元住民の利便性も向上させる。それにより地元意識の向上につながり来訪者の受け入れ態勢も改善されるという好循環を形成する。

- ・インバウンド対策として、史跡齋宮跡内の施設及び公園のトイレ洋式化や関連施設のキャッシュレス決済化に取り組む。

これらの取組により、インバウンドを含めた来訪者だけでなく、地元住民の生活の利便性も向上され、地元愛、日本遺産齋宮に対する誇りを向上させる。

取組⑤学校での日本遺産教育

- ・学校教育と連携し、引き続き町内の小学生へストーリー解説マンガ本を配布し授業で活用する。

・出前授業、博物館や復元建物への遠足、課外授業及び発掘現場での体験学習等を通じて、齋宮を体感してもらう。

これらの取組により、児童の地元愛、日本遺産齋宮に対する誇りを醸成し、齋宮以外も含めた文化財の次世代への保存、継承を確かにすることを目指す。

取組⑥調査研究と共有

・博物館(県)と町が連携し史跡齋宮跡の調査研究を継続して行う。調査結果は報告書や町の広報「広報めいわ」、年数回発行される「さいくうあと通信」にて一般に情報発信。

これらの取組により、広大な齋宮跡の解明を進め、齋宮に対する関心を町内外に発信する。

取組⑦保存

・国、県、町、地域住民が連携し史跡齋宮跡の公有化、保存活用計画の策定に取り組む。

この取組により、他にない文化遺産である齋宮を後世に残し、恒久的に多くの人が訪れ、親しんでもらうことが目標となる。

取組⑧歴史的景観の保護

・史跡齋宮跡内の歴史的景観を保護するための条例策定への準備に取り組む。

この取組により、歴史的景観が保護され来訪者の満足度向上及びシビックプライドの醸成を図る。

(3) 自立的・継続的な取組

「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」を継続的に地域に浸透させ、行政だけでなく地域の担い手を育成していくために、毎年学校教育の場において総合学習等で齋宮のストーリーを活用した授業を実施する。博物館や歴史体験館等の施設を併せて活用することで児童のストーリーの理解度を高め、次代の担い手の育成を図る。さらに児童の齋宮への関心が高まることにより、その保護者や周りの人にもストーリーや日本遺産関連の取組が波及し地域に浸透していくことが期待できる。

学校教育以外にも、齋王まつりやいつきのみや観月会といった齋宮に関連するイベント(齋王役が選ばれ出演)等を継続して開催し恒久的に齋宮のストーリーを地域に浸透させ継承していく。このような様々なイベントの情報は各構成団体が中心となり国内外に発信し、町外からの誘客に取組む。まつりには町内外から民間事業者が参加しており、その数を今後も増やしていく。多くの民間事業者が参加し、齋王まつりやその他のイベントが更に盛り上がり、参加する事業者にとっても貴重な商機となり、住民、民間事業者、行政それぞれの立場がWin-Winとなる状況を創出する。こうした取組により日本遺産・齋宮の認知度が更に向上することで、齋宮跡にまつわるふるさと納税の増額を見込む。それを財源に齋宮に関するインバウンド対策を含めた来訪者の受け入れ体制・環境整備や学校教育に注力することで、更に多くの民間事業者を巻き込む好循環を築く。

(4) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財を保存し将来にわたってその価値を持続させるために、シビックプライドの醸成及び向上を目指す。そのための取組として日本遺産を活かした学校教育に力を入れる。授業で日本遺産のストーリーを取り上げることで児童の地元愛、齋宮に対する誇り、文化財を大切にすることを育む。また、博物館や歴史体験館といった齋宮の魅力を伝える施設が展示や催し物を積極的に開催し情報発信することで年代を問わず幅広い層の住民が齋宮に誇りを持つことを目指す。

活用においては既存の催し物を発展させつつ、新たにツアー商品を開発し、齋宮の魅力を積極的に発信する。それによりインバウンドを含めた多くの誘客を達成する。現地では地元のガイドが齋宮をはじめ構成文化財を案内する仕組みをこれまで以上に拡充させる。これらに対し、実際に齋宮を訪れた来訪者の声をフィードバックし、ツアーやガイドの質の向上、成熟を図る。ツアーがコンテンツとして成長することにより、地元の魅力を発信するガイドが増え、齋宮のストーリーや構成文化財について学ぼうとする住民が増加し、文化財の保存に寄与する。そしてこのような取組の中で日本遺産・齋宮の認知度や魅力、受け入れ態勢が更に向上することで、ふるさと納税をはじめとした齋宮に関する収入の増額が達成される。それを財源に日本遺産の整備や学校教育に更に注力し、多くの民間事業者を巻き込む好循環を築く。

(5) 他の観光施策との連携

齋宮は明和町の観光コンテンツのメインであり、明和町観光振興計画においても、齋宮の認知度向上や、活用は重要な施策の1つとして位置づけられている。協議会に明和町観光協会をはじめとする観光関連団体が所属し、DMOの(一社)明和観光商社と連携して日本遺産齋宮を活かした観光振興に取り組む体制の更なる強化を図る。

(一社)明和観光商社は「夜の齋宮」や竹神社といった、これまであまり活かしきれていなかったコンテンツを新たなイベントとして活用し、「満月屋台」や「プロジェクトンマッピング」を実施しており、今後も連携の強化を図る。

構成文化財の大淀にはキャンプ場があり、町の観光施策の一つの目標である宿泊者数の増加に寄与している。他にも齋宮や神宮観光がセットになった民泊がオープンしている。

齋王をモチーフとしたゆるキャラ、「めい姫」は町内外で人気を博し、ゆるキャラグランプリで県内1位となるなど明和町、齋宮の認知度向上につながっている。こうした日本遺産に関するコンテンツの更なる情報発信に取り組んでいく。

(6) 実施体制

明和町日本遺産活用推進協議会

文化財部会

- 明和町郷土文化を守る会
- 明和町緑のまちづくり推進委員会
- 齋王の舞保存会
- 呉竹倶楽部

- 明和町
(グループリーダー)
- 齋宮歴史博物館

観光部会

- (公財)国史跡齋宮跡保存協会
- 国史跡齋宮跡協議会
- 明和町商工会
- 明和町観光協会
- (齋王まつり実行委員会・大淀)

祭典委員会・明和太鼓保存会・
齋宮ガイドボランティア)

オブザーバー

近畿日本鉄道(株) 三重交通(株) (一社)明和観光商社

毎年オブザーバーを含めた全ての団体が参加する協議会を年3回以上開催。観光DMOである(一社)明和観光商社と明和町が中心となり協議会としての取組の方向性を総括して推進している。(一社)明和観光商社も参加する観光部会の団体が集まる連絡会を原則毎月開催し民間主体の取組の情報共有、連携を密に図っている。文化財部会については定期的な会議開催は無いが齋宮歴史博物館と町が常に連携し文化財の保存活用に努めている。

[民間事業者との連携]

(公財)国史跡齋宮跡保存協会は齋宮跡の施設や土産店の運営を行いグッズ販売、飲食の提供を行っている。他にも齋宮に関する情報発信を積極的に行い、他団体と連携しつつきのみや観月会などの催し物を開催する。

明和町観光協会は「めい姫」と共に町内外のイベント等に積極的に参加し齋宮の魅力を情報発信。SNS等も活用し随時ストーリーにまつわる最新情報を発信。また、大淀のキャンプ場も運営しており、更なる収益化を目指す。内部組織である齋王まつり実行委員会が中心となり、毎年6月に齋王まつりを開催しておりコンテンツとしての更なる発展に取組んでいく。また地元住民を中心に組織している齋宮ガイドボランティアも観光協会の内部組織として活動。来訪者へ齋宮の案内を行い、ストーリーの理解度向上に貢献しており今後も継続していく。

地元住民で組織された呉竹倶楽部も(公財)国史跡齋宮跡保存協会と連携し「さいくう平安の杜」の管理を行い、来訪者への齋宮の案内を行っている。また、町内での催し物において出店も行っている。

近畿日本鉄道(株)や三重交通(株)はオブザーバーとして積極的に日本遺産の活用に参加しており、協議会主催で毎年3月に開催される「こどもわいわいフェスティバル」ではアトラクションの実施や広報として大きく貢献してくれている。他にも「きんてつハイキング」とコラボしたスタンプラリーを開催するなど、新たな試みも実施し連携を深めていく。

(一社)明和観光商社はこれまでに無かった「夜の齋宮」や竹神社を活かしたイベントを開催し大きな効果を上げており、新規イベントを含めて更なる活用を推進する。民間旅行会社と連携しツアーも企画し商品化を図る。

オブザーバーを含めた協議会構成団体以外にも民間事業者と連携し齋宮のPRに努める。例えば、大手旅行会社と連携し東京、名古屋、大阪などの大都市圏で博物館や町の専門職員による齋宮の講演を実施しツアー商品化を行っており、今後も継続、発展させていく。他にも町内大型商業施設内のフードコートにて日本遺産パネルを活用した展示や町内銀行にてパネル展示など、町外だけでなく地元住民が集まる場所での情報発信にも注力する。

(7) 地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	これまで進められてきたハード・ソフト両面での整備を継続し、新たなツアー商品の開発、ガイドなど人材育成にも注力することで、従来になかった楽しみ方を創出。それにより今後益々増加するであろうインバウンド客も含めた多様な来訪者の満足度を向上し、国内外問わず齋宮、明和町へのリピーターを増加させる。
---------	--

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化

観光客入込み数		具体的な指標：明和町観光客入込数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	233,000	275,000		90,000	180,000	270,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	明和町観光客入込数が3年間でコロナ禍以前の水準に戻ることを目指す。					
関連事業	1-①・2-①・3-①・4-①・5-①・7-①					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化

外国人観光客数		具体的な指標：齋宮跡関連施設外国人入込数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	199	156		100	150	200
目標値の設定の考え方及び把握方法	町が管理する齋宮跡関連施設の外国人入込数がコロナ改善の水準を取り戻すことを目指す。					
関連事業	1-①・2-①・3-①・4-①・5-①・7-①					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
[計画評価指標]		具体的な指標：町内宿泊施設利用者数				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値		22,500		8,000	16,000	24,000
目標値の設定の考え方及び把握方法		令和元年比毎年500人増。				
関連事業		1-①・2-①・3-①・4-①・5-①・7-①				

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じる住民の割合		具体的な指標：町内で実施したアンケート結果				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値		72	78	80	80	80
目標値の設定の考え方及び把握方法		令和2年の調査結果を基準に80%以上を目指す。				
関連事業		1-①・2-①・3-①・4-①・5-①・6-①・7-①				

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
[計画評価指標]		具体的な指標：				
年度	実績			目標		
	〇年	〇年	〇年	〇年	〇年	〇年
数値						
目標値の設定の考え方及び把握方法						
関連事業						

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
[計画評価指標]		具体的な指標：齋宮跡関連のふるさと納税額				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	3,268,000	30,413,000		31,000,000	32,000,000	33,000,000
目標値の設定の考え方 及び把握方法	令和5年に令和元年比10%増を目指す。					
関連事業	1-①・2-①・3-①・4-①・5-①・7-①					

設定目標Ⅳ：その他						
[計画評価指標]		具体的な指標：				
年度	実績			目標		
	〇年	〇年	〇年	〇年	〇年	〇年
数値						
目標値の設定の考え方 及び把握方法						
関連事業						

(8) 地域活性化のために行う事業

(8) - 1 組織整備

(事業番号1-①)

事業名	個人サポーター育成事業		
事業内容	個人サポーター（観光大使・ガイドボランティア・呉竹倶楽部）のストーリーや構成文化財に対する理解度を向上することで、齋宮の情報発信力や認知度向上、来訪者の受入態勢の強化を図る。勉強会や情報発信を定期的に行い、個人サポーターが最新の齋宮を発信できるよう取組む。 齋宮の認知度が向上することで、それに対するふるさと納税の増収を見込む。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	協議会の収益額	具体的な指標	ふるさと納税額
実績値	平成30年度：3,268千円 令和元年度：30,413千円 令和2年度：		
目標値	令和3年度：31,000千円 令和4年度：32,000千円 令和5年度：33,000千円		
事業費	令和3年度：	令和4年度：	令和5年度：

(事業番号1-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値	平成○年度：	令和○年度：	令和○年度：
目標値	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：
事業費	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：

(8) - 2 戦略立案

(事業番号2-①)

事業名	地域コンセプトの共有		
事業内容	令和2年度に認定された明和町文化財保存活用地域計画に基づき長期的構想を協議会で共有し、官民間わず同じベクトルで持続可能な地域の未来の達成に取り組む。協議会や連絡会を定期的に開催し適宜進捗状況を確認し計画に基づき修正する。また、協議会だけでなく地域住民、地元企業にも情報発信しコンセプトの共有を図る。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度	具体的な指標	アンケート結果
実績値	平成30年度：	令和元年度：	令和2年度：
目標値	令和3年度：50%	令和4年度：60%	令和5年度：70%
事業費	令和3年度：	令和4年度：	令和5年度：

(事業番号2-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値			
目標値			
事業費			

(8) - 3 人材育成

(事業番号3-①)

事業名	明和町文化遺産活用人材育成事業		
事業内容	これまでに作成した日本遺産の構成文化財以外の記録映像も用いながら、町内の無形・有形文化財を活用した文化体験を可能とする人材(文化観光ガイド、文化観光マネージャー)を育成する取り組みを行うとともに、将来的には「一般社団法人明和観光商社」が中核となって長期的に継続できる事業化を目指す。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	ガイド利用客数
実績値	平成30年度:3,256	令和元年度:3,479	令和2年度:
目標値	令和3年度:1,200人	令和4年度:2,400人	令和5年度:3,500人
事業費	令和3年度:	令和4年度:	令和5年度:

(事業番号3-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値	平成○年度:	令和○年度:	令和○年度:
目標値	令和○年度:	令和○年度:	令和○年度:
事業費	令和○年度:	令和○年度:	令和○年度:

(8) - 4 整備

(事業番号4-①)

事業名	史跡齋宮跡調査発掘研究		
事業内容	史跡齋宮跡の発掘調査を実施し、調査結果の現地公開を行う。調査を進めることでストーリーの深掘り、サブストーリーの磨き上げといった齋宮のブランド向上につなげる。		
実施主体	齋宮歴史博物館、明和町		
事業期間	現地公開数		
事業評価指標	ブランド力	具体的な指標	現地公開開催数
実績値	平成30年度：3回	令和元年度：2回	令和2年度：3回
目標値	令和3年度：7回	令和4年度：7回	令和5年度：7回
事業費	令和3年度：2,000千円	令和4年度：3,000千円	令和5年度：3,000千円

(事業番号4-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値	平成○年度：	令和○年度：	令和○年度：
目標値	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：
事業費	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：

(8) - 5 観光事業化

(事業番号5-①)

事業名	明和町文化遺産活用普及啓発事業		
事業内容	町内において収益力を発揮する文化資源を活かした観光旅行商品を造成するために、斎宮跡をはじめとする日本遺産や祭礼行事などを中心としたモニターツアーを実施。(一社)明和観光商社や旅行会社と連携し、旅行者がSNSやHPで検索しやすく、ツアーを予約しやすいシステムを構築。現地でのガイドや体験を含めたモニターツアー全体を通じてフィードバックし、何度も来たくなるようなツアー商品化を目指す。将来的に商品化したツアーは(一社)明和観光商社が旅行会社に販売し商社の収益となることを目指す。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	民間主導のイベント数	具体的な指標	モニターツアーの観光商品数
実績値	平成30年度：0	令和元年度：0	令和2年度：0
目標値	令和3年度：1	令和4年度：2	令和5年度：3
事業費	令和3年度：9,065千円	令和4年度：9,000千円	令和5年度：

(事業番号5-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値	平成○年度：	令和○年度：	令和○年度：
目標値	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：
事業費	令和○年度：	令和○年度：	令和○年度：

(8) - 6 普及啓発

(事業番号6-①)

事業名	学校での日本遺産教育事業		
事業内容	教職員向けの研修も含め、日本遺産にまつわる授業を実施し、児童の日本遺産に対する関心を高める。これまでに制作したマンガ解説本も継続して活用する。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	学習体験をした生徒の数	具体的な指標	授業実施回数
実績値	平成30年度：5回	令和元年度：2回	令和2年度：3回
目標値	令和3年度：2回	令和4年度：4回	令和5年度：7回
事業費	令和3年度：	令和4年度：	令和5年度：

(事業番号6-②)

事業名			
事業内容			
実施主体			
事業期間			
事業評価指標		具体的な指標	
実績値			
目標値			
事業費	令和3年度：	令和4年度：	令和5年度：

(8) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-①)

事業名	他地域との連携による情報発信事業		
事業内容	他の日本遺産認定自治体、古代官衙や齋宮群行ルート自治体などと連携し、相互に日本遺産・文化財のPRを行う。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他(連携自治体数)	具体的な指標	連携自治体数
実績値	平成30年度：1	令和元年度：1	令和2年度：1
目標値	令和3年度：1	令和4年度：2	令和5年度：4
事業費	令和3年度：	令和4年度：	令和5年度：

(事業番号7-②)

事業名	SNSを活用した情報発信事業		
事業内容	Facebook や Instagram を活用し随時日本遺産齋宮に関する情報を発信。協議会で常に情報共有し、各団体が実施するイベント情報など最新の情報を発信し主にInstagram等を利用する層をターゲットに更なる誘客を図る。		
実施主体	明和町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	フォロワー数等のエンゲージメント数	具体的な指標	Facebook と Instagram のフォロワー数
実績値	平成30年度：	令和元年度：	令和2年度：6,300
目標値	令和3年度：7,000	令和4年度：7,500	令和5年度：8,000
事業費	令和〇年度：	令和〇年度：	令和〇年度：